

ヴォリュームアキュライザーの活用(2)
—Siemens 6.5 フルレンジユニットへの適用—

1. 始めに

今回は、Siemens 6.5 フルレンジユニットに適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴方法

Siemens 6.5 フルレンジユニットは後面開放型キャビネットに納められており、[サブシステムの入れ替え](#)で報告したとおり、AXIOM80 と入れ替えたものです。

今回は、スピーカーユニット自体の制振に VRA-7 の効果があるかどうかを見ます。ユニットには、レゾナンスチップを貼っていますので、それを剥がして VRA-7 を貼ります。VRA-7 の躯体は非磁性体のようなので問題ないと思われます。

再生ルートは、TruPhase までは前報(2)のとおりで、下記のルートで再生します。

TruPhase→ExPro SV-1→PX25 シングル→Siemens 6.5 フルレンジ



Siemens 6.5 フルレンジの最近の状況は下記で報告しています。

[サブシステムの再構成\(4\)](#)

音源はヴォリュームアキュライザーの導入(9)で使用したアナログ盤を使用します。

LONDON SLC 1138

ファリヤ 三角帽子

アンセルメ指揮スイスロマンド

ARCHIV(日本ポリドール) 28MA 0020

J.S.Bach チェンバロ協奏曲

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

harmonia mundi(Deutche) KUX-3248-H

ミトマニア

ベーレン・ゲスリン
キングレコード SKA-104
愛と自然の歌
倍賞千恵子

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7の試聴結果

ZANDEN Model 120 の設定はこれまでの経験を基に選定しています。

このシステムの音は、PX25 という茄子管のオールドファッションのアンプでフルレンジを駆動するもので、ナローレンジながら、後面開放型キャビネットに入れてあり、伸び伸びと鳴るものです。

三角帽子は、音の緻密さが向上していますが、オーケストラにはフルレンジの限界みたいなものを感じます。

チェンバロ協奏曲は、音の粗さが取れてアンサンブルの解像度が増し、チェンバロの繊細感も向上します。

ミトマニアは、男女のボーカルが伸び伸びと歌うようになり、バックの古楽器もクリアになります。

倍賞千恵子は、ナローレンジがワイドレンジになるわけではありませんが、声のニュアンスが明瞭になり全体に音の粗さが取れています。

ヴォリュームアキュライザーの導入では、駆動アンプの PX25 で大きな効果を認めましたので、ユニットと PX25 の同時適用に興味があります。また、サイズのマッチングしていないところもありますので、もう一回り大きなサイズのもので作ればどうかと思っています。

4. まとめ

PX25 シングルアンプで駆動する後面開放型キャビネットに入れた Siemens 6.5 フルレンジスピーカーユニットに VRA-7 を貼ってみましところ、フルレンジスピーカーの限界ながら、かなりの効果を認めました。

以上